



第5回 ルール・マナーのみえる化検討部会

教育関連

2016. 6.29 (水)
10 : 00-12 : 00



本日の内容

1. これまでのまとめ

2. 新たな自転車安全利用教育プログラム一覧（素案）について

（1）現行事業の再整理

（2）プログラムの目的と教育内容

（3）プログラム一覧（素案）

3. ルール・マナーブック（啓発用リーフレット）の作成について

4. 今後の進め方と課題

（参考）

1. これまでのまとめ





これまでのまとめ

自転車を取り巻く環境の変化

●自転車は「車両」，原則左側通行

●自転車の事故の状況

→交通事故の死傷者数は学齢が上がるにつれて増加

→高齢者は、死亡事故につながる確率が高い
→若年層の第一当事者割合が高い

●自転車の安全利用に関する講習の受講

→教室の受講歴は年齢が上がるにつれ、受講者は少ない

●京都市における啓発教育の状況

→行政・警察・学校などで交通安全教室などを実施

先進事例について

●海外と国内の事例を紹介

→受講した内容を家庭で共有

→自転車の検定制度

→学校以外での交通安全教室の場の提供

→ルール・マナーをわかりやすく解説したブック

→人材育成について

自転車安全利用教育について

■ 6W1Hの考え方で年齢や時どきにあった啓発・教育を実施

知る

+

みえる
(わかる)

=

守る

● 知る・学ぶ機会の提供

● 年齢等の段階に応じた啓発・教育

● 何がなぜ危険かの納得と理解

● まちなかでの実践

リスクを自身で判断し、実践できるようになるための
「理解」を重視した教育の提供

●ルール・マナーブックについて

⇒ 守る理由が「みえる化」されたルール・マナーブックの作成

2. 新たな自転車安全利用教育プログラム 一覧（素案）について

- (1) 現行事業の再整理
- (2) プログラムの目的と教育内容
- (3) プログラム一覧（素案）





現行事業の再整理



●ライフステージに合わせた自転車安全教育プログラム一覧 (現状1:自転車政策推進室で実施しているもの)

	~5歳	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人	高齢者
・出生	・保育園入園 ・幼稚園入園	・小学校入学	・中学校入学	・高校入学	・大学入学 ・免許取得 ・転入	・免許取得・更新 ・転入、就職、結婚 ・子育て	・免許更新 ・運転免許返納 ・孫育て
座学	子育てパパママ向け 自転車交通安全教室 (保護者と一緒に)		スケアード・ストレイト方式による 交通安全教室		自転車安全利用講習会 ①教習生向け ②一般市民向け	子育てパパママ向け 自転車交通安全教室 (こどもと一緒に)	

マナーアップフェスタ in 京都

関係団体(サービス事業推進室、各区役所、府警、地域団体等)と連携した街頭啓発、各種イベントへのブース出展、市バス車体を活用した広報等

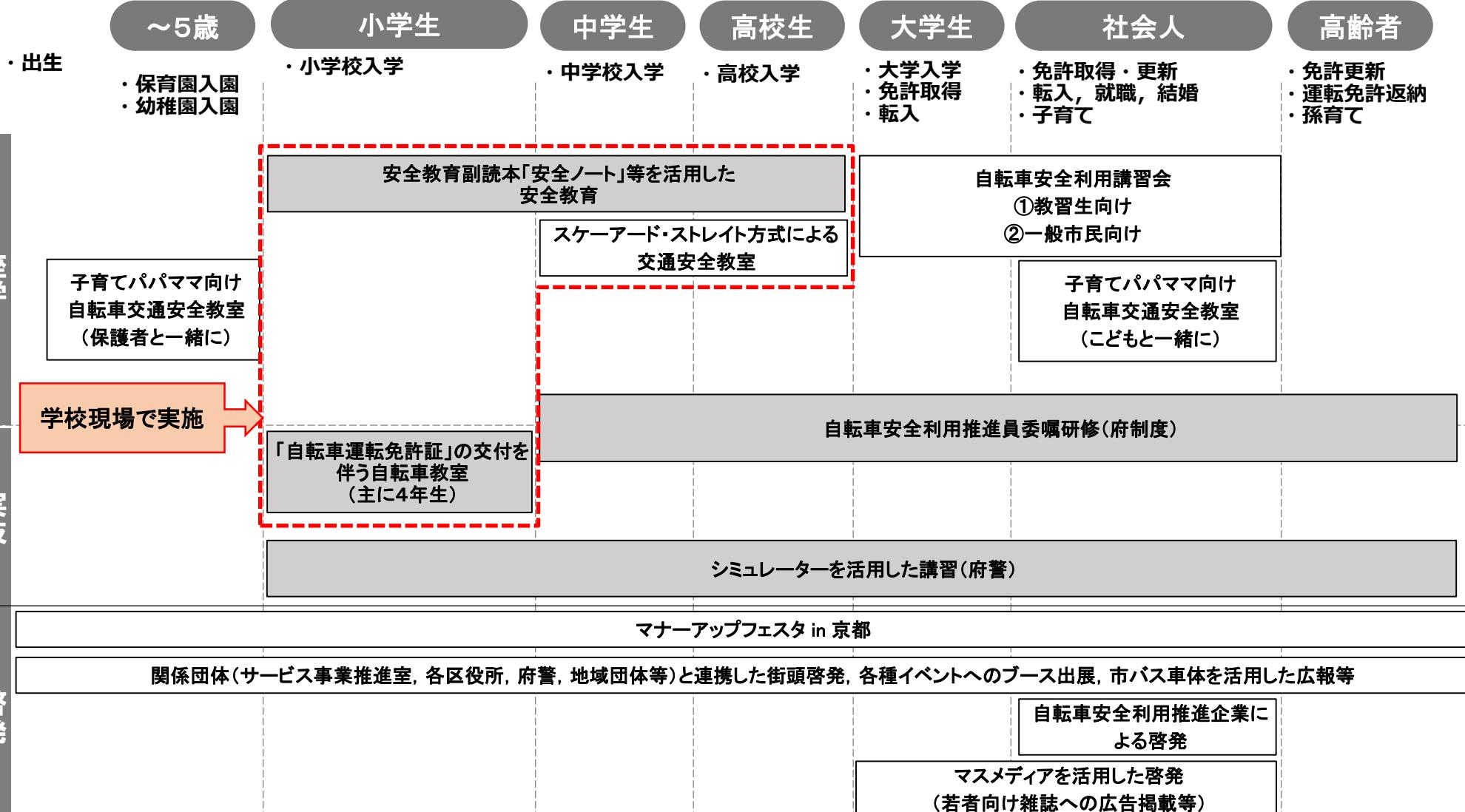
自転車安全利用推進企業による啓発

マスメディアを活用した啓発
(若者向け雑誌への広告掲載等)



現行事業の再整理

●ライフステージに合わせた自転車安全教育プログラム一覧 (現状2:自転車政策推進室以外が実施しているものを含む)



2. 新たな自転車安全利用教育プログラム 一覧（素案）について

- (1) 現行事業の再整理
 - (2) プログラムの目的と教育内容
 - (3) プログラム一覧 (素案)





プログラムの目的



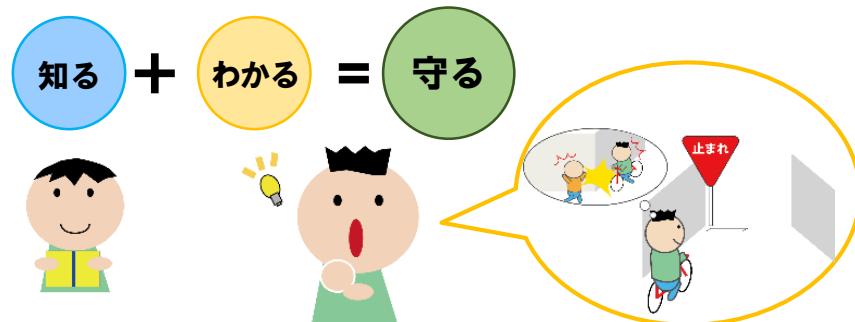
自転車の基本的なルール・マナーの周知徹底を図る

「歩道は歩行者のためのもの」 →歩道走行は例外
「自転車は車両」 →左側通行の遵守 等

最終的には



自転車利用者が、自分自身で危険と安全の本質を理解し、
自分や他者の安全のために、自転車の安全利用を実践できる
ようになること。





プログラムの教育内容について①



自転車の基本的なルール・マナーの周知徹底
&
より一層の自転車の安全利用の実践

子どもからお年寄りまで、ライフステージに合わせた自転車教室と啓発を関係機関や地域・企業等と連携して計画的に実施していく

●京都府自転車安全利用促進計画

◎利用者の実態（学校、地域、事業所、高齢者等）に応じた自転車安全利用講習の充実・強化



●京都市の特徴

- ・細街路が多い
- ・歩行者の通行量が多い
- ・大学生を中心とした若年層が多い

京都市の現状に応じたプログラム



プログラムの教育内容について②



まずは…

取り組みの ポイント



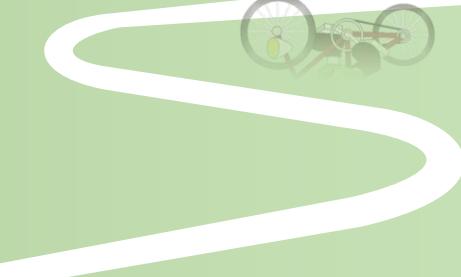
- ①事故が多い若年層に対する教育の充実
- ②受講経験の少ない高齢者への受講機会の充実
- ③新たに走行環境の整備を行う地域への重点的な啓発の実施
- ④自転車の楽しみ(趣味・スポーツとして)や健康へのメリットという視点

特に、子育て世代の保護者層や祖父母の年代に当たる高齢者層に対しては、訴求力の高い「子ども」という切り口を用いることで、ルール・マナーの遵守意識を高める



2. 新たな自転車安全利用教育プログラム 一覧（素案）について

- （1）現行事業の再整理
- （2）目的と教育内容
- （3）プログラム一覧（素案）





ライフステージに合わせた自転車安全教育プログラム一覧(素案)



教育関連

~5歳

小学生

中学生

高校生

大学生

社会人

高齢者

・出生

- ・保育園入園
- ・幼稚園入園

学校現場で実施

子育てパパママ向け
自転車交通安全教室
(保護者と一緒に)

安全教育副読本「安全ノート」等を活用した
安全教育

自転車教室

自転車教室

スケーラード・ストレイト方式による
交通安全教室

ストライダー教室
(初めての自転車体験)
(サイクルセンター)

「自転車運転免許証」の交付を
伴う自転車教室(主に4年生)

自転車安全利用推進員委嘱研修(府制度)

シミュレーターを活用した講習(府警)

自転車教室(実技), 自転車検定(免許証)

①新しい走行環境に応じた自転車の乗り方, ②サイクリングの楽しみ方等 (サイクルセンター)

玉無し自転車
交通安全教室

自転車の楽しみを学ぶ教室

サイクリングイベントの企画, 支援

マナーアップフェスタ in 京都

関係団体(サービス事業推進室, 各区役所, 府警, 地域団体等)と連携した街頭啓発, 各種イベントへのブース出展, 市バス車体を活用した広報等

自転車安全利用推進企業に
による啓発

マスメディアを活用した啓発
(若者向け雑誌への広告掲載等)

新たに走行環境の整備を行う地域への啓発 (①都心部地区, ②西院地区, ③らくなん進都地区)

自転車購入時(自転車販売店等), 京都市転入時(不動産業者等)

レンタサイクル利用者(観光客, 外国人)へのルール・マナーの周知徹底

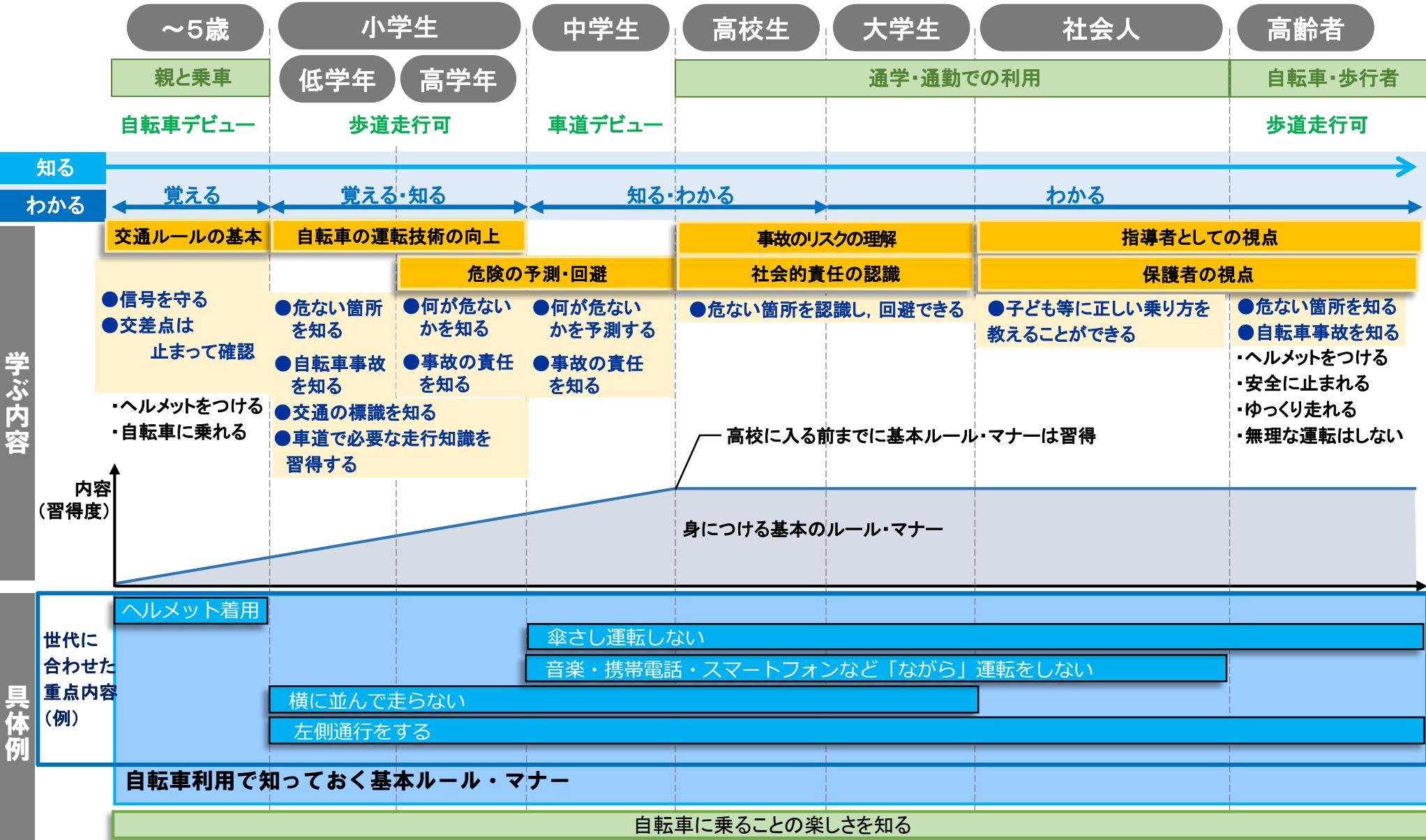
座学

実技

啓発



ライフステージ別のプログラム内容

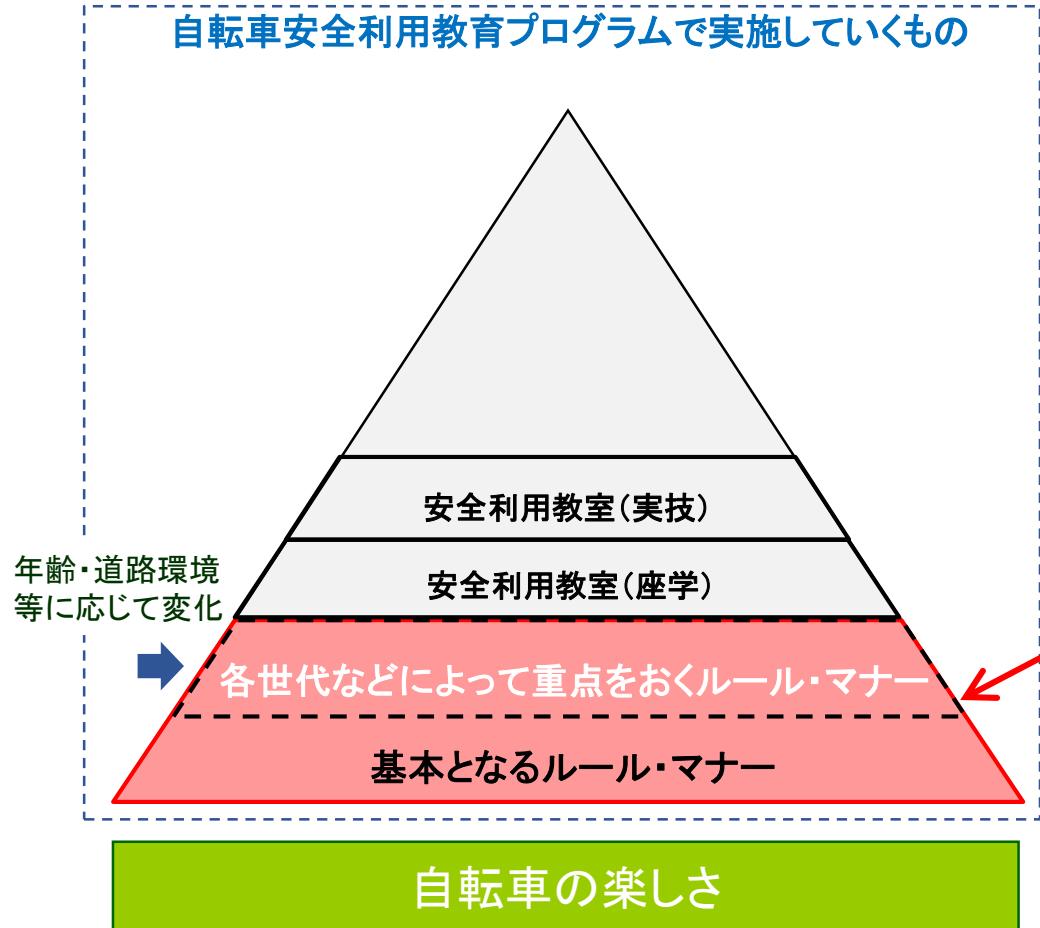


3. ルール・マナーブック (啓発用リーフレット) の作成について





ルール・マナーブック(啓発用リーフレット)の内容



身につける基本のルール・マナー

II

ルール・マナーブック

- ・京都で知っておくべき、最低限のルール・マナー
- ・京都の自転車利用入門編

京都自転車基本の8ヶ条

+
a



ルール・マナーブック(啓発用リーフレット)の構成イメージ

- 京都で知っておくべき最低限のルール・マナー
- 京都の自転車利用入門編

■京都自転車基本の8ヶ条



■自転車の走行環境の整備

+

- ・ガイドラインに沿った今後の整備の説明
 - ・路面表示の説明
 - ・走行の仕方など
- 地域の状況を踏まえる必要性

+

- ・自転車の乗り方で、押さえておきたい基本的なルール・マナー
- ・各世代に応じた留意事項
- ・自動車など自転車以外からみた状況

+

■既存媒体等の活用

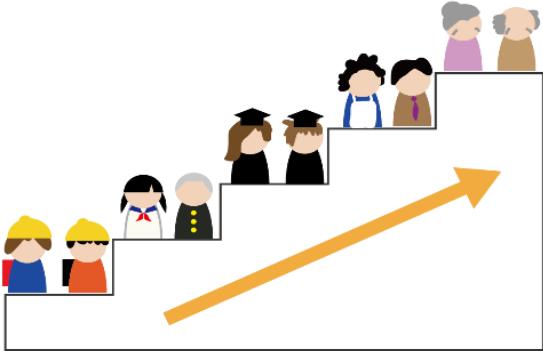
教えるポイント
教わるポイント

京都自転車基本の8ヶ条を踏まえた内容に

道路交通法に関するルールだけでなく、自転車の乗り方や道路の使い方、自転車利用者以外からの見え方などの視点も



ルール・マナーブック(啓発用リーフレット)の活用方法



ライフステージに合わせた啓発時に利用

各世代等の節目の時に,

入学時

就職時

転入時

...

自転車に関するルール・マナーについて、知る機会を増やす

守る機会を増やす



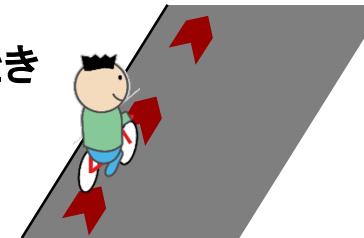
地域等における教室利用等に利用

地域などで安全利用に関する集会や活動を行うとき

地域の方が中心となっても教えやすく、わかりやすく

走行環境の整備のときに、整備地域周辺に周知するとき

地域に合わせた内容で、実践しやすく





ルール・マナーブック(啓発用リーフレット)イメージ



◎例え…

01 自転車はクルマの仲間



自転車はクルマの仲間(群衆)です。クルマにふさわしいルール・マナーをすることが求められます。

02 左側通行が原則



クルマの中に並ぶ自転車は、左側通行が原則です。クルマと同じ方向を向いて走ることが基本になります。

03 自転車は車道



自転車は車道走行をめざします。なんといっても、「自の自」なのでですから、安全を兼ねかねなくて、危険でもあります。

04 乗り方上手の秘訣



カーブミラーや一歩引いた視点など気に付けると、ぐっと上手な自転車乗りになれちゃう。

京都 自転車 基本の8ヶ条



ちょっとの心がけできっと、もっと、自転車は楽しくなる。

05 意思の疎通が肝心



まわりの様子をよくみて、普段よりお互いの行動を気を使いましょう。

06 夜は目立とう



暗くなったら、ライトをつこう。光ってて目立てば、安全安心です。

07 京流押し歩き



お店は歩行者優先です。人の多いところは自転車の件は控え、これぞ京流ゆもとなしです。

08 本当の安全のために



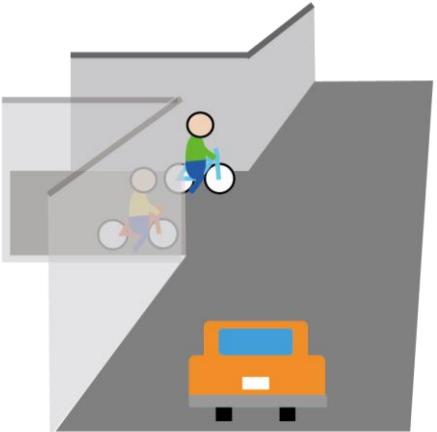
ルールを覚えることは大切です。でも、一旦大切なのは実践すること、そして、お互いを思いやることです。

左側通行が原則

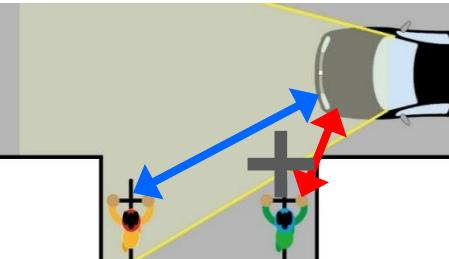
なぜ、
左側通行なのか
考えてみよう。



クルマのドライバーから見えない



クルマのドライバーに気付かれない



左側通行

自動車からの
距離が右側
より長い

右側通行

自動車からの
距離が短い

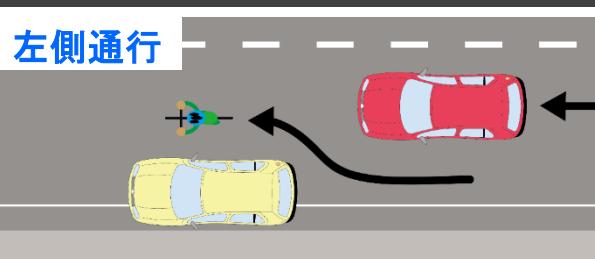
お互いの姿が見えない

至近距離のため対応しきれない



お互いの速度が加算される正面衝突では、深刻な事故に繋がりやすい

左側通行

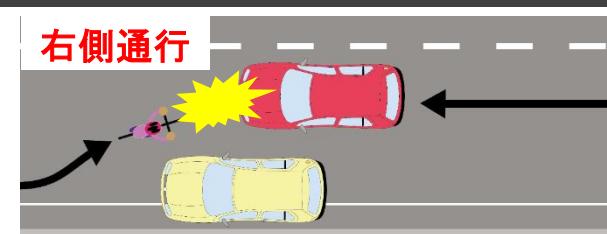


ドライバー からの 視点

左側通行

車から自転車が見えるため、
比較的予想・対処しやすい

右側通行



右側通行

車から見えないところから自転車が飛び出してくれるため、対処できない

出典：『自転車の安全鉄則』（疋田智氏著）

4. 今後の進め方と課題





今後の進め方



ライフステージに合わせた自転車教室と啓発を、
関係機関や地域・企業等と連携して計画的に実施

現在、既に実施しているもの

→ 隨時、検証・見直しを行い、
新たな自転車安全教育プログラム
を構築していく。

今後、新たに実施していくもの

→ 「Do 実行」からはじめ、検証・改善し、プログラムを構築
(Do→Check→Action→Plan)



■新たな自転車安全教育プログラム(素案)の一覧から、実施可能なものから順次実施

ルール・マナーブックの作成

自転車安全教育のベースとなるもの

新たな受講プログラムの実施

- 中高生向け自転車教室（座学）の試行実施
- 走行環境整備と合わせた周辺地域への周知・啓発
⇒ 地域との連携





今後の課題



世代に合わせた
自転車の交通安全教室などの実施

新たな自転車安全教育プログラムの策定

- 6W1H(だれに、何を、どのように、なぜ、いつ、どこで、だれが)を考慮し、実効性の担保に留意する。

専門性を維持しつつ、継続してプログラムを実施できる体制づくりが必要

- 教育プログラムをトータルコーディネートできる運営主体の確保
- 専門家としてのサイクルアドバイザーや地域で活動していただける人材の育成

将来的には、サイクルセンターも実践の場として活用

- ライフステージに合わせた各種自転車教室や自転車検定、イベントの開催等

自転車教室や自転車検定の受講歴の記録

- ポイント化(教室受講等のインセンティブ)
- ポイントがたまれば駐輪料金の値引き・減免等の特典

京都サイクルパス制度（仮称）へ



保険会社との連携
協力確保

保険義務化(検討中)

保険

(参考)

市民アンケートの実施と結果について





市民アンケートの実施概要

教育関連

目的

市民の自転車の利用状況をはじめ、ルール・マナーの遵守意識や状況、自転車の保険の加入状況等、自転車の安全利用に関する状況を把握し、今後進めていく取組みや政策の参考とするため

対象

京都市内在住の15歳以上

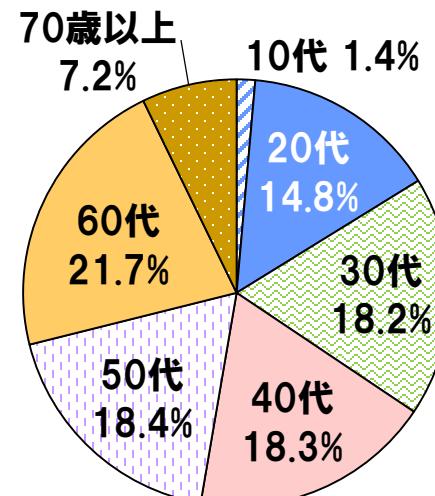
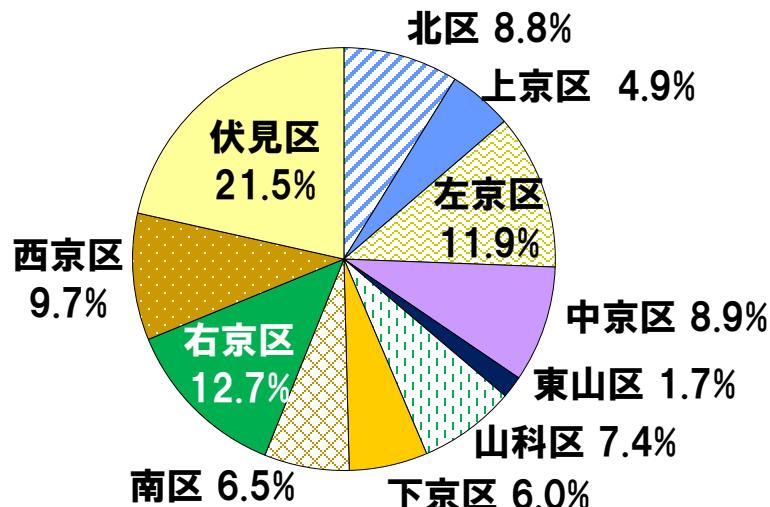
方法

インターネットによるアンケート調査（1,000サンプルを抽出）

実施日

平成28年6月6日（月）～6月8日（水）

回答者の属性





アンケートの調査結果(抜粋)



- 自転車走行の状況は、前回アンケート調査(H26.7実施)からほとんど変化していないかった。

→ 車道の左側通行について、
更なる周知徹底が必要

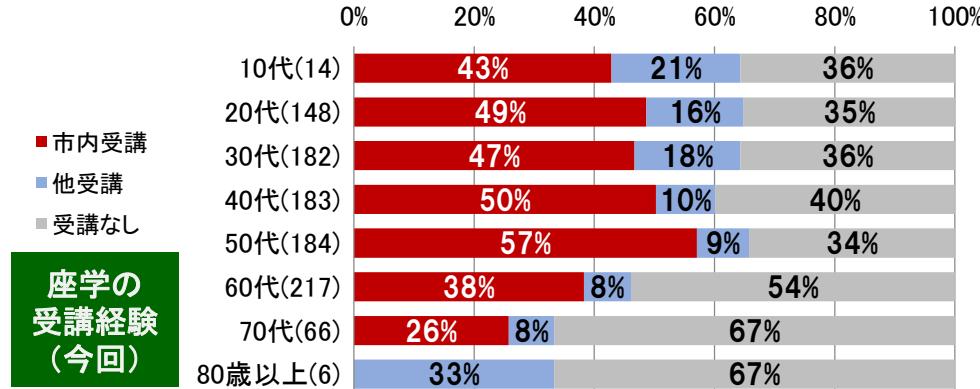
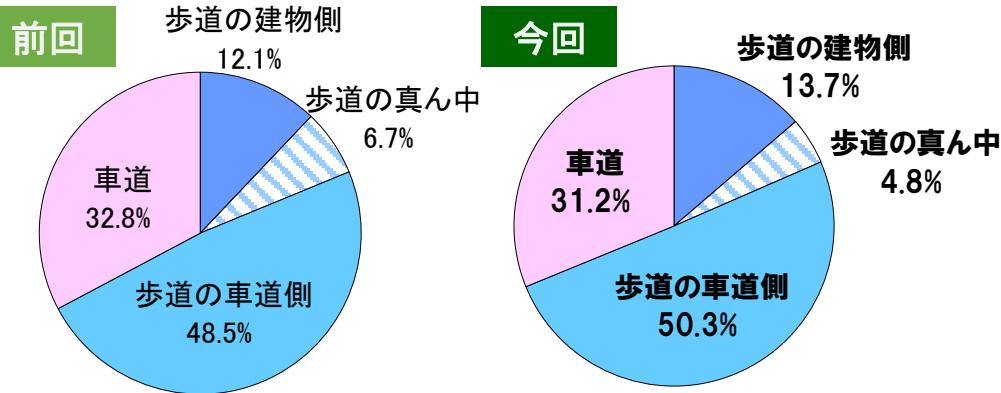
- 自転車の安全利用については、小学校で教わった人が多い一方、高齢者は教わる機会がほとんどないことが分かった。

→ 高齢者向けの教室等の開催が必要

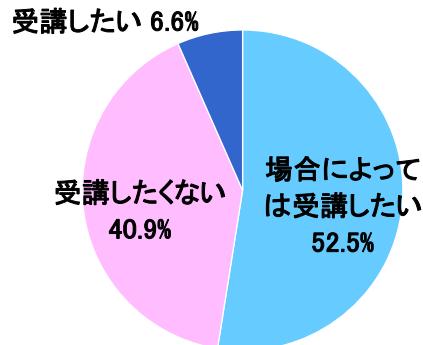
- 自転車教室について、受講したくないが約4割を占める一方、受講したい中身や特典があれば受講するとの人が多くた。

→ 教室の内容の充実を図るとともに、教室受講者へのインセンティブ付与のあり方について、引き続きの検討が必要

→ 京都サイクルパス(仮称)につなげる。



座学の受講経験
(今回)





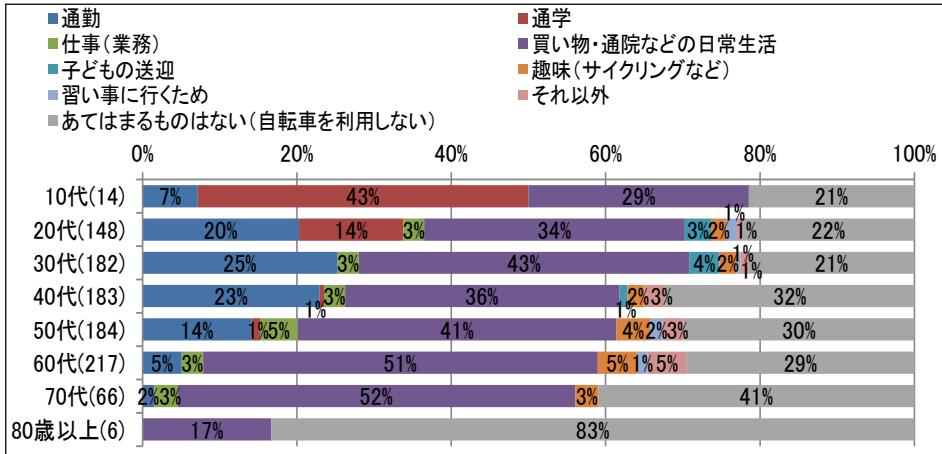
アンケートの調査結果について①



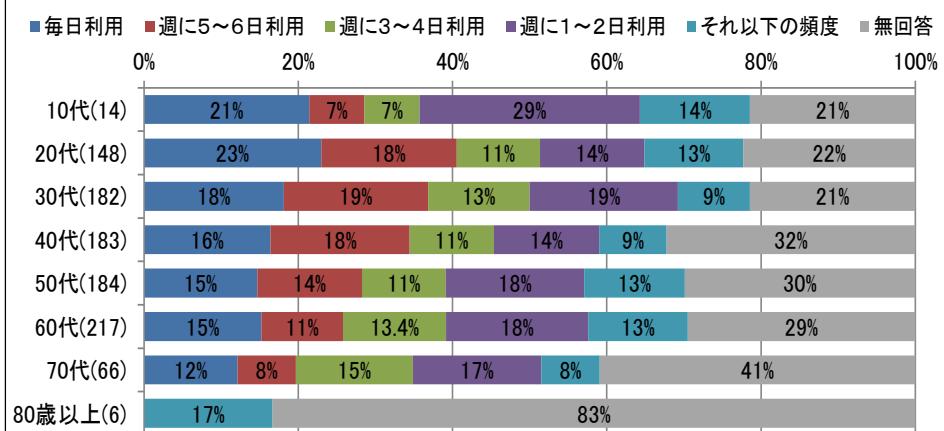
自転車の利用状況

- 利用目的では、10代を除いて「買い物・通院などの日常生活」での利用が最も高い。
- 利用頻度では「毎日利用」と「週5~6日利用」が30代まで約4割であった。
- 走行位置については車道走行はどの年代でもだいたい3割前後であった。
- 走行位置の利用では歩道を走行している人の多くが、「車道を走るのが怖い」との意見であった。
- 走行位置の理由としては「走行位置として路面などに表示がされているから」が最も多くなっている。

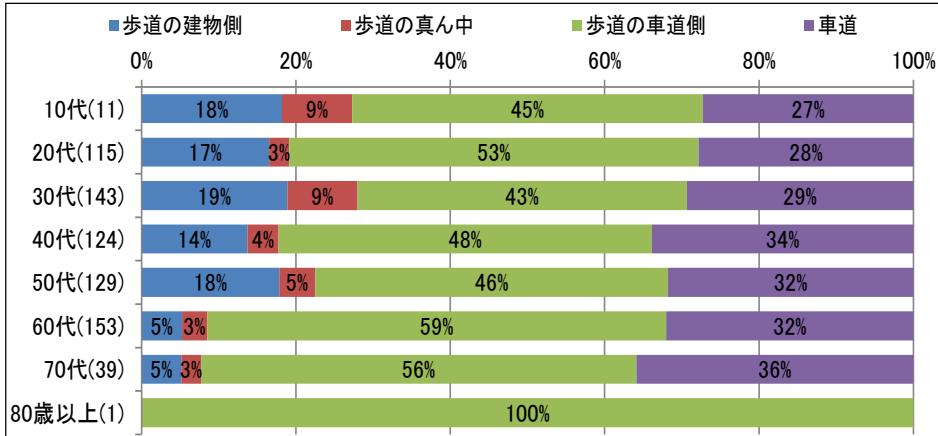
● 利用目的(1位)



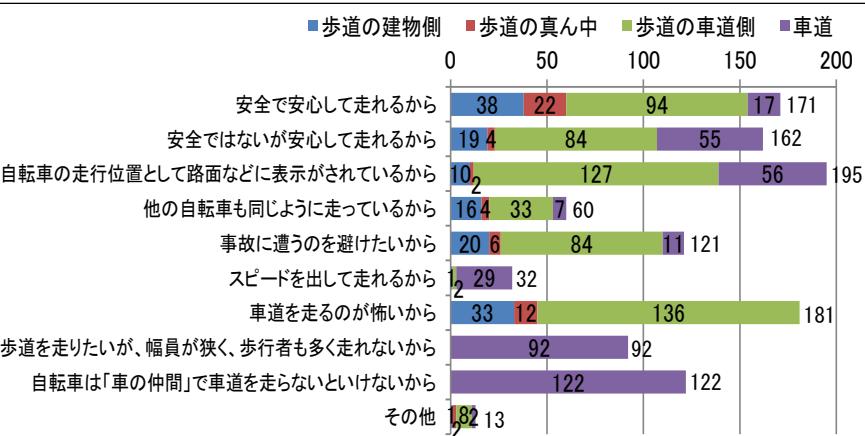
● 利用頻度



● 走行位置



● 走行位置の理由



※ () 内の数値は母数である。



アンケートの調査結果について②

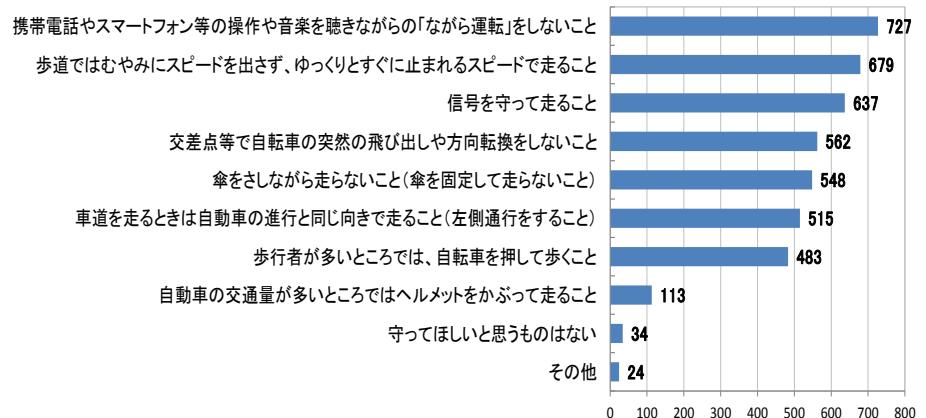


教育関連

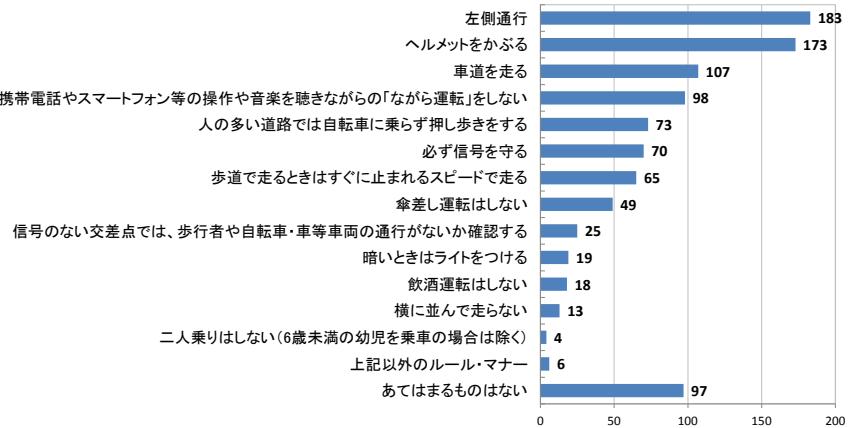
自転車の安全利用

- 守ってほしいルールでは、「ながら運転」をしないこと」が最も多く、次いで「スピードを出さず、ゆっくり走る」であった。
- 守っていないルールでは、左側通行であった。
- 守らない理由では、「違反しても罰金をとられたり、罰則を受けることがない」が最も多かった。
- どうすれば守るかでは、罰金や罰則、取締りの強化に次いで多かったのが「小さい時から自転車の安全利用についての教育を実施する」であった。

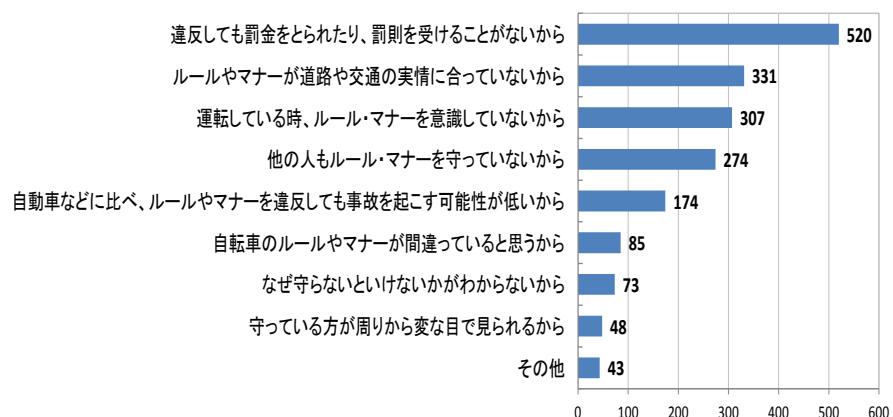
●守って欲しいルール



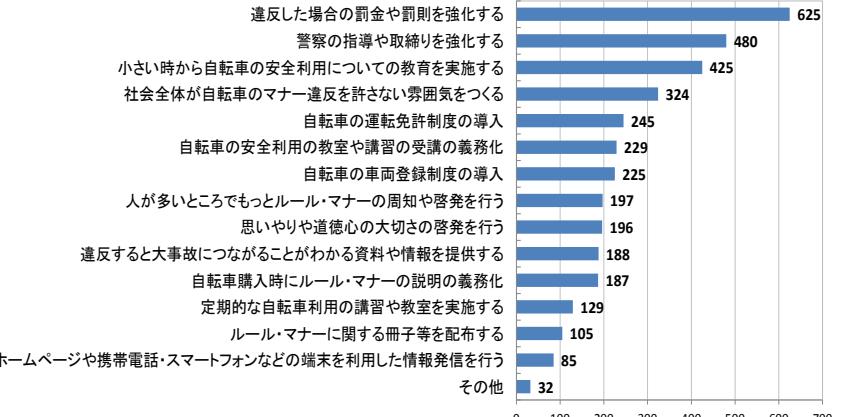
●守っていないルール



●守らない理由



●どうすれば守るのか





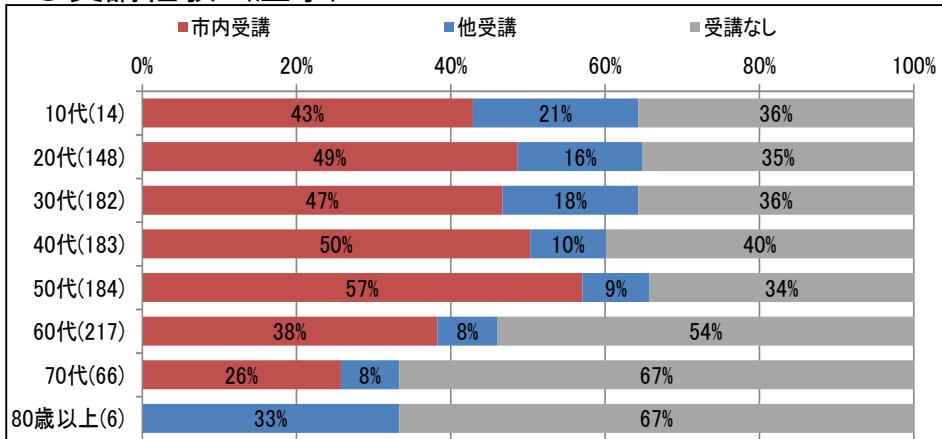
アンケートの調査結果について③



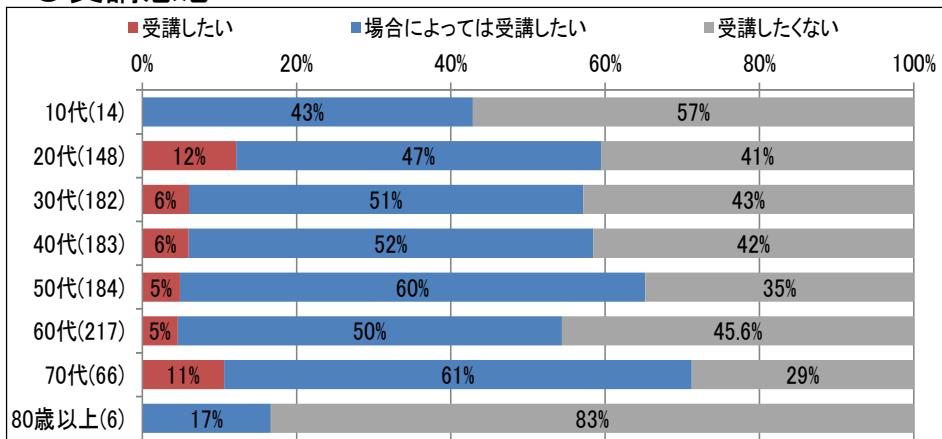
自転車の安全利用に関する 講習会や教室の受講①

- 受講経験について、受講経験がある人は、座学・実技とともに50代までは約6割であるが60代以上では、約4割と約2割減少。
- 受講意志については、「場合によっては受講したい」を入れると約5割～6割で、条件付きなら受講してもいいという人が多かった。
- 受講をしたくない理由は、「自転車に乗らないから」「必要性を感じない」「ルール・マナーをいつも守っている」という順で多かった。

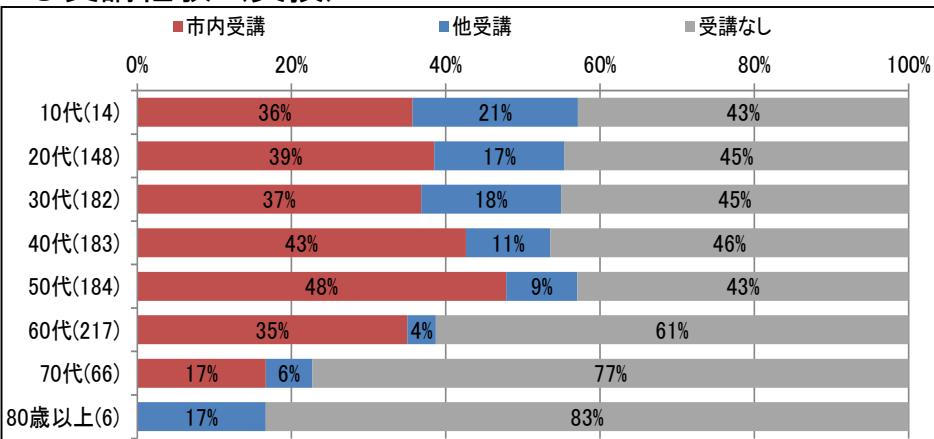
●受講経験（座学）



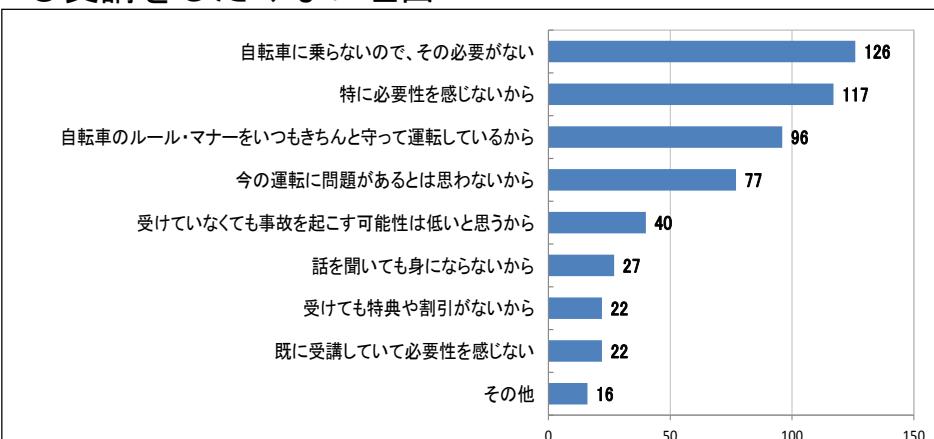
●受講意志



●受講経験（実技）



●受講をしたくない理由



※ () 内の数値は母数である。



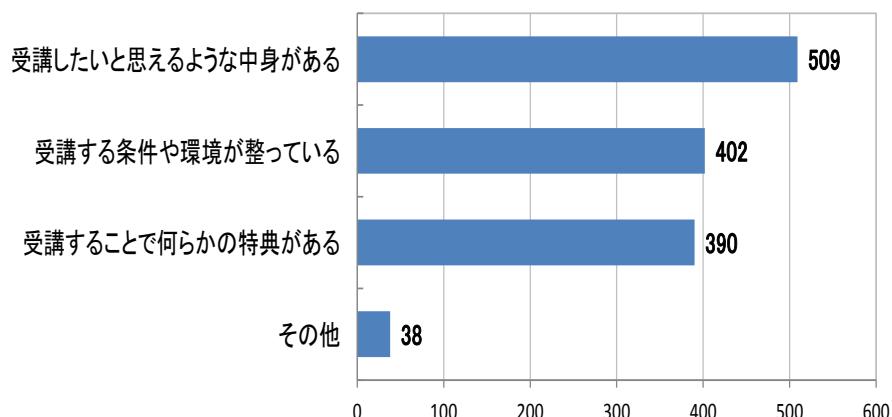
アンケートの調査結果について④



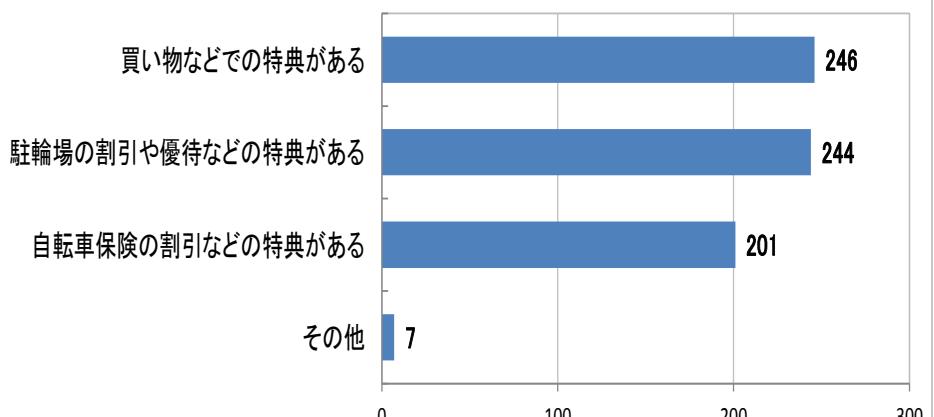
自転車の安全利用に関する 講習会や教室の受講②

- ・受講促進については、「受講したいと思える中身がある」との回答が約半数であった。
- ・特典については、買い物や駐輪場、自転車保険などほぼ同じくらいの意見であった。
- ・環境では、「住んでいる地域の学校や公共施設等での開催」が最も多かった。
- ・中身については、「自転車のルール・マナーだけでなく乗り方や自転車の整備方法など受講内容の充実」が他と比べやや多かった。

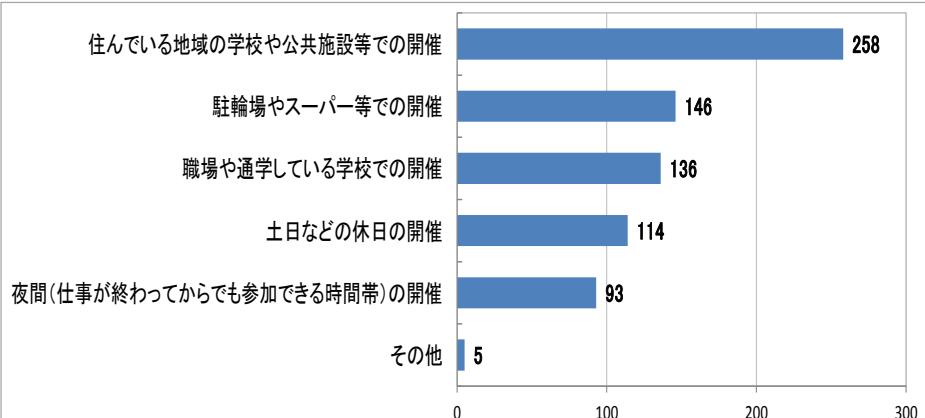
●受講促進



●特典



●環境



●中身

